

令和7年度 授業改善推進プラン < 数学 >

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1年	○授業での様子から、分からない問題があった際にすぐにあきらめてしまう生徒がいる、一方、最後まであきらめずに正答まで努力する生徒もいる。 ○定期考査の結果から、基本的な計算でつまづいている生徒が多く見受けられる。また、思考・判断・表現を問う問題に対する理解度も低い。	○一斉授業の特徴を生かし、分からない問題があったら周りの生徒と話し合い、共に調べたりしながらねばり強く努力するように指導する。 ○計算能力の向上を図るために、授業初めに計算円周を取り入れ、演習の機会を多くする。また、思考を増やす問題も積極的に取り入れ、授業の内容を利用した総合問題を演習する。	
2年	○授業での様子から、分からない問題があった際にすぐにあきらめてしまう生徒、すぐに誰かに答えのみを聞こうとする生徒が多く見られる。 ○定期考査の結果から学習内容の定着度に二極化が見られる。知識・技能の定着が不十分な生徒は、思考・判断・表現の定着も不十分である。	○話し合い活動の際には、計算過程や根拠となる事柄を明確に説明できるように指導していく。また、分からなかった生徒に問題の解き方を説明する時間を設ける。 ○知識・技能の定着を図るために、演習問題や家庭学習問題を作成し、繰り返し解かせる。授業の最初には、既習事項の確認を徹底して行い、知識の定着を図る。	
3年	○全国学力・学習状況調査の正答率は、都や全国よりも低い結果となっている。 ○習熟度別の授業において、基礎コースは定着度が低い生徒が多いため、教え合い・学び合いを行うことが難しくなっている。 ○定期考査の結果から、知識・技能の点数は高く、思考・判断・表現の点数が低い生徒が多数いる。このことから、機械的な計算はできるが、それを活用することが苦手な生徒が多い。	○既習内容の復習やふりかえりをしてから新しい内容の解説に入る。 ○習熟度に応じて、演習量を調整したり、思考するポイントを焦点化したりして、教え合い・学び合いをできる環境を整える。 ○数学の事象や日常の事象を数学的に表現する機会を多く設ける。また、抽象的な事象を捉える際は、まず具体的に考えさせる指導を行う。	